



影元不相見倭由薩 **淺草文庫** 注進

廿七日家督被仰付

九月朔日御役督大番 板倉筑後守

御書陰蕃 板倉筑後守 石川備中守

御小姓組番 石川備中守 赤川下野守

御徒以 去屋内記跡寄合子リ 中山主水

順見御勤定衆二十人御暇金二枚

御徒目付十人金十兩宛

御徒中山勘十由組及小出次郎右門

跡三宅大學組ヨリ小沢伊兵衛

南都一乗院宮維廣會領千石被遣

初十御礼時服三銀馬代細川熊次郎

一九月五日日光十七日御名代

吉良左京太夫

代 是沢壹岐守

同御祭礼奉行

酒井信濃守

代 板倉伊与守

日光海道林見分御殿

銀十五枚

御被官組从

豊田次郎兵衛

同十枚

御徒目付

小堀源藏

評定所一書付

一寛永十三年御代、日光日光御所、日光御所、日光御所

定元卯、申刻より申刻迄、
難波事、
及、
年、
深、
滞、
根、

一、
理、
不、
一、
其、
不、
一、
其、
不、
一、
其、

河中波字、平日武、搜求、武、礼、世、
中、下、た、本、く、実、音、飛、く、く、字、を、変、り、
ら、く、由、の、波、波、字、く、く、小、共、の、と、あ、
り、や、海、く、く、を、采、り、の、水、く、白、く、出、少、く、を、
カ、と、つ、り、大、り、く、波、波、字、と、九、沙、波、の、
く、く、の、と、云、以、之、の、波、の、波、又、波、波、く、く、小、武、
の、道、眼、く、り、武、の、波、波、く、り、て、年、の、所、り、

遠い理と波に在るの行、く、く、
く、く、の、風、波、の、宜、く、也、く、波、波、く、く、
波、を、た、り、く、く、り、も、く、波、を、小、く、を、
く、く、事、凡、俗、積、つ、く、く、は、思、白、事、
一、海、空、の、波、と、り、河、海、と、り、其、節、く、波、人、
間、難、有、く、く、く、く、一、海、く、白、く、海、の、も、
は、く、く、海、の、水、と、く、あ、て、く、く、は、く、く、

近年の東の金源より及官物東
軍の沙汰は事と交はれお
差を事実と云ふは評定所より
一人殺す一人を一人の沙汰は事
没と云ふは評定所より評定と云ふ
その中後とお失ひなり人より其共
カは評定所より評定一人を一人は事

は思ふ事

一 評定所より評定所より評定所より評定
近年の東の金源より及官物東
軍の沙汰は事と交はれお
差を事実と云ふは評定所より
一人殺す一人を一人の沙汰は事
没と云ふは評定所より評定と云ふ
その中後とお失ひなり人より其共
カは評定所より評定一人を一人は事

尚し日久敷かて紙印をへしし事漸
其費用も失印てしし事らう
と況又し紙印をへししものたれを
思ふ及ふ事らう事らう事らう
今も信の事らうの事らうを思ひぬ
紙印申に事らうて之と事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう

一 凡そ事の用ひし紙印をへしし事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう
事らう事らう事らう事らう事らう

均少し其方を違へし者もろくは世に
其沙汰の正年久安少くは河代始に附
既濟糸目之を——公うせ——とて
田舞今に及らざるより程、七才一の若風
吹くふとくおつし河邊事、控やられ
ひふとくハ母六共沙汰及るふつしハ事
ふふ事りくわ、其家中し事ハ之に及交
能く者ハ、むらぬ宜共戒てらるるのには
是ふハ事
附牢屋に及人と云事、種くはま、ひ
とむらぬ、何れハ事ハ事ハ事ハ事ハ事
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事
事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事ハ事

本條、官水給せしむるに法を以て
し、事には方して六文少く、河改事、しずみ、
六百事、河改、白紙、お定、事、
改、事、
度、し、
り、
り、

名、
名、

正徳二年九月六日

評定所一舟子中

宗國諸子、
宗國諸子、

宗國諸子、

宗國諸子、

代及方中如足定之亦極中打如以水
人殺之亦減之極之極度中亦令運送也
作造之漆之考以船之方如以水之入殺并
亦是極中之色之如造送水之亦極度也
改修之記重之亦船以中船之也右書有
其所為金中料八中代及和船以地以也
中代及亦比以方中船是也其以之
方以方也其極中方如足方之入也
船之入之極中極度考細改之亦城也其
如以中船之也其比之亦殺也其高也其亦
候入以船或水之入殺定之也今減少也其
所入以船也其亦其所之極中水之入殺
亦是方其亦其所之極中水之入殺也
波也如其之也其亦其所之極中水之入殺也

路大水二丁木津川水力并增候由
六日於御座削大坂御殿御馬時服
二拾御里仰下知怕御年自御腰物

内夜豊前守

一 七日願ノ通隱居 松平越中守

家督同因幡守 五千表配分^{二男}同三郎次

山城國淀松平丹波守領八月十八日

大風雨十九日洪水城內多門石垣崩
家中不殘水入大破高二百四十三百
石余其外品損毛流死七人損牛五疋
五參内東海道叢濃同日大風雨
八月九月西國四國中國大風雨
十一日萩原近江守御役被召放寄合
被御付遠慮ノ義ハ重テ可被御旨

於鳥居伊賀寺宅被申渡下
十一日南部信濃寺改大膳亮
八月十五日神田四神祭礼
正月次之御礼
御礼不波名
大川同九月十二日
御礼不波名

一十四日酒井備後寺跡式觸右近被

御付
御臺所以

願ノ通御役御免
足田勘左工門

大番組知久七郎兵衛跡本多
小笠原彦九郎

金地院後住
金地院学从
扎西堂

江戸崎大念寺後住
増上寺伴从
觀徹

今日増上寺御参詣相延

一十七日紅葉山御参詣少々御風氣被
成御座以御延引随分狂キ御夏表
向テ毎御汰汰
一廿一日座頭中へ御書付

一 追奉官令と申礼令と云共之之四ノ月切
一 也利と云云候向書一ノ年一

度沈文と云留う申礼令也利と云
申云云

一 返令延引ノ方、所限申候事也右此候
は方おまの向書申一人一人素心と云
對沈申云云 上候口知申事候事
此所限申候事也右此候事候事
此所限申候事也右此候事候事

捕、つひに事

一人一人、今、子と及、命と、名、月、御、経、平、
元、口、備、く、右、礼、命、を、永、く、極、く、成、仁、の、事、向、也、
西、人、浪、人、今、子、元、次、の、事、は、昌、安、の、事、
今、子、と、及、と、も、つ、は、い、文、才、能、く、流、先、
と、丁、字、の、と、系、部、の、事、
東、の、所、に、於、お、寄、り、つ、る、事、
長九月

長九月

惣檢校

願、通、隱、居

相良志、六、寺

家督、於、波、間、座

同、近、江、寺

是

一、新、浪、吹、留、の、事、お、止、ら、れ、の、事、
後、ハ、右、浪、元、祿、浪、定、永、以、好、く、浪、の、事、
交、互、用、に、滞、り、つ、ら、ぬ、事、
交、互、用、に、滞、り、つ、ら、ぬ、事、

或ハ多ク武ハ安キニシテ色ヲ用テ其ノ
仁者ニシテ心ヲシテハ色度沙沙ハツク
リトク

辰九月

一 廿五日夜大久保木工卒ス

一 廿六日御臺所足田郭左門外小坂長右門

御徒本多久五郎組以尾崎友右門

病氣御免跡八重安生兵右門

駿府加番御暇跡御風氣故御目見之

兼時服四羽跡京極臺政守

兼同三羽跡立花彈正

兼一羽跡松平教馬

通塞御免跡伊沢播磨守京極主計

兼跡井出左門

一 廿七日金引替御用 平岩若按寺

日光御成 / 依御修震御用

大久保大隅守

御切米御膳幣百表 廿五十四兩

琉球国中山王尚寧ヨリ薩列ニテ以使

者献上 龍延香 三十袋

純子 二十卷 八重嶋煎海鼠 二連

泡盛酒 三臺

御臺所 官香 二十把 色縹子 二十卷

泡盛 二臺

御不例御棧嫌伺生花一桶檜重一組

御香一種 井甲掃部次

生花一桶檜重一組宛老中間部越前

寺本多中勢太浦

繪重一組宛

若年寄中

御留守居大久保淡路寺与刀石里源
 次郎屋布ノ内居申渡辺柳軒卜申宰
 人下谷池ノ端町屋布ヲ所持其屋寺
 ヲ切殺候故坪内能登時方余等ノ上
 二ノ源次郎柳軒五ノ十
 而人揚座ニ
 十ノ八ノ入

一 廿八日月次ノ去仕有之処 公方様

候々御不例充軽干御様体 候へ死

候御催被遊義故為御養生御札御請

不被遊候由於席々老中被申渡

去廿五日大坂御城内内後豊前寺出

岐伊与寺交代添

一 十月朔日去仕有之処 御撥嫌御快

然併為御養生御表へ出御毎之今夜
玄猪ノ御祝儀被相上候由被仰渡
候御内々ニテ御祝有之殿中在合ノ面
々へ御祝被下由
御役替御躬定奉行荻原近江守跡御
普請奉行少立百石御加増氷野對馬
守改因備守

御普請奉行

水野對馬守跡
御目付ヨリ

伊勢平八郎

御持刀

淺野左兵衛跡
定火消ヨリ

舟越五郎右三門

改左工門

定火消

舟越五郎右工門跡
寄合ヨリ

岡部兵衛

改左工門

佐渡奉行

荻原近江守跡
寄合ヨリ

神保新五左門

御舟手

天野左工門跡
小普請方ヨリ

石川源兵衛

二條御藏奉行

俊料百表
御躬定ヨリ

奈佐清大夫

被召出御切米二百俵賜之嶋田幸菴

公方様御不豫、根津、初方々、御祈禱有之

一 四日、戸間御請衆、四、五日、間置可被伺、御機嫌由

根津権現祭礼十一月十一日、被仰出、此間、宰屋、目、明、不、残、死、罪、成、凡

昨三日、松平若狭守、伺御機嫌、御擧重、献、上

御不例段々御快然、肯誥、衆芙蓉間、其外諸役人、老中演説

一 六日、崩白、敵近衛、攝政殿御辞退、八月、廿八日、勅許、九条殿へ、崩白宣下、由

一 七日、秋元、但馬守、以御書、舟、大久保、大隅守へ、被仰渡

相列小田原

一 右小田原宿々大城宿根々々馬継乃々
 一 宿々多々河宿根々々海道々々
 一 所々竹人馬月夜々々々々大城宿根々々
 一 其人々々々々々々々々々々々々々々々々
 一 其宿々々々々々々々々々々々々々々々々
 一 始々々々人々々々々々々々々々々々々々

一 相列之宿宿
 一 右之宿宿ハ宿根宿之継乃之宿々色
 一 相之海道々々宿宿々々宿々人々々々宿入用
 一 一々々々々々々々々々々々々々々々々々
 一 一々々々々々々々々々々々々々々々々々

一 相列之宿宿
 一 右之宿宿ハ宿根宿之継乃之宿々色
 一 相之海道々々宿宿々々宿々人々々々宿入用

おもと女及御後少中達へ上聞自
今以好く為申候一々年二米之百表り
より

位列坂平宿

同柳井沢宿

右宿六雄水味いお好く申仙乃
之御取立下しとて継も色く人子

馬氏にお教入用女及御後少中達

之聞りく存御教米候りく想りて

中仙乃八東海道く申候りく一々年

米百率儀りより

辰十月七日

御目付

間宮

敦負

一 七日御座用御用

御目付

稻葉

多宮

御坂御用

佐渡奉行兩人芙蓉川席被 仰付

河野勘右衛門 神保新五左衛門

遍塞御免 松平 和泉寺

松平 臺岐寺 同 石見寺

一 十日 公方様昨夜御務、膝御勝不枝

遊夜中老中奏者番衆云登 城今日

日川老中若年寄、御城泊川有

忌御免登 城 大久保長門寺

同 加賀寺

紀州へ上使奏者番高木主水正被仰

付紀伊殿急 御参府候様 被仰付

十一日 祭足

遍塞御免 屋代越中寺 松平 左川

遠慮御免 萩原近江寺

川宮播磨守

竹田丹波守

一 十一日 十二日 十三日 御核嫌伺惣出

仕 御觸八十

一 十三日 御役替 掃部 及老中 列座上

意 趣被申渡

御目付 御徒 及ヨリ 三宅 大學

同断 稻生次郎左門

新御番組 及ヨリ

佐橋左源太

中奥ヨリ

中根半十郎

御徒 及

戸田肥前守 組ヨリ

永田除左門

酒井同播守 組ヨリ

飯田善左門

一 正徳二年 壬辰十月十四日 曉

公方様 薨御 御遺骸 増上寺へ被為入

首御遺言 假御位牌

淨岳院殿道蓮社清善廓然大居士 正二位

勅號 文昭院贈正一位大相國公

今日惣出仕ノ処於御黒書院下段掃

部以老中若老中出座 公方様御養

生不被為御叶今曉薨御被遊候

錫松様へ御相續被遊候不相替御奉

公可出情候 御幼君ノ御喜ニ候間

別于可勵御忠節ノ者被仰置候尚又

御書被差置候間拜聞可仕旨掃部以

被申渡之 御遺書白木三方ニ載林

七三郎奉讀之

不肖く身

東照宮ノ御統^神上ノ御事ニの^二天

ノ^一改奉常ニ 神徳嗣^二子^一

心とは物と云へども日経く——と共なく
遂に——の今に及て——と云ふを——と
右方と云ひて——と云ふを——と云ふ
の人権を争ひ——と云ふを——と云ふ
う——と云ふを——と云ふを——と云ふ
乃人——と云ふを——と云ふを——と云ふ
心と——と云ふを——と云ふを——と云ふ

謝も——と云ふを——と云ふを——と云ふ
家創業乃好治平百年くる相——と云ふ
長と——と云ふを——と云ふを——と云ふ
う——と云ふを——と云ふを——と云ふ
教の——と云ふを——と云ふを——と云ふ
右の——と云ふを——と云ふを——と云ふ
深き戒と——と云ふを——と云ふを——と云ふ

たのしき書家之厄難といふのいふわ
そとに夫りく人民不事たる下
こりくも穢人山ありくおむつさ
事之白者く

正徳二年十月九日 御墨印

右讀畢し左派年中必事く令浪位忠
為通用指文作帳之 関白令浪乃

候ハ新洲ノ室守との事之存く通く浪乃
此は之書作 権記標御代御定重は終
通御改つは此の事と云く日御延行は
此の通御書身ては是れ其の御代御定
旨は 此の通御但之守は浪乃

善法寺御停止

御遺骸被為 入候旨増上寺へ御使

本多彈正忠彌右ノ段日光准后へ被
仰遺 上使三宅備前寺

町中へ御觸

町中中番御定之通今使方御取立
至て申上之表同敷一御備前寺
入直て申上之表同敷一御備前寺
お守て申上之表同敷一御備前寺

辰十月十日

一 町中中番御定之通今使方御取立
一 至て申上之表同敷一御備前寺
一 入直て申上之表同敷一御備前寺
一 お守て申上之表同敷一御備前寺
一 町中中番御定之通今使方御取立
一 至て申上之表同敷一御備前寺
一 入直て申上之表同敷一御備前寺
一 お守て申上之表同敷一御備前寺

子、如合不扱、のきりふ
一 火之用をく、後念を入麻末、
うり事

一 家持同正仁再座席表座く者之七付長
用り事

本通堅、子如、
行作

一 十五日御法事奉行秋元但馬守近衛院 淨蓮院

同御佛殿御用 井上河内守

同御法事御用 大目付 中川淡路守天陽院

寺社奉行 安反右京亮常照院 光学院

赤川出相守普光院

勤定奉行 水野因幡守常光院

増上寺御佛殿御手傳 松平伊与守

同御廟御午傳

榊原式部大輔

同御普請御用

間部隱岐守

御小納戸

窪田弥十郎

同 月 細井友左衛門

小普請方

西山源藏

同 月 竹村權左衛門

御出棺御用

御月付

鈴木伊兵衛

竹村權左衛門

御出棺来々廿日晚ノ筈

増上寺御番

京山川

小笠原山城守

寺光院

五表門

永井備後守

廣通院

裏川

井伊兵衛少輔

林松院

本堂裏口

石川近江守

良源院

同火ノ番

戸田土佐守

清光院

後枝若狭守源流院

諏訪主殿徳水院 永井修理源壽院
京都大坂紀列へ御書付被遣 上使
御使番津田外記十八日祭足 薨御
以後紀列へ早使御奏者番高木主水
正

京大坂駿府伏見へ上使

井上頼政守組

石川三左工川

大思上佐守組

曾根源藏

落髮無用者御遺言由 間部越前守

落髮無用 土様被為附由

大沢右衛門督

宮原刑部太捕

堀川兵部太捕

落髮御小姓 間部隱岐守

稻生阿波守

村上市正

間戸淡路守

一柳玄蕃次

河野信濃守

本日額政守

中根大隅守

御小納戸

酒井宗右工門

五十幡八重門

竹本宗右工門

五十嵐市十郎

建部彦四郎

細井友左工門

加茂長三郎

小笠原頼母

鈴木百次

森川与右工門

窪田跡十郎

蜂屋左兵衛

村田十郎右工門

舟橋半右工門

鍋松君 上様卜可奉唱之旨

十五日十六日惣出仕

御目付中十六日 = 被申渡 十七日

每出仕十八日 万石以上十九日

万石以下

金銀ノ御遺書

被仰出候趣

上は身我圃より金浪とて一々事
致すべくて大りく効用とほしく
ひ一々事とて世乃人波く波く
如くは 左照宮河津世とて一々事とて

年三及ひく大室とて時なり公及先 神徳
感し一々事とて大りく大りく大りく
初めけ始く金浪とて一々事とて
圃乃始なり一々事とて其例を聞ふと
大れなり一々事とて公私とて城の効用ゆと一々
事とてリ公の一々事とて我圃乃始なり
も金浪と求じ候とて一々事とて渡事なりとて

其敷ぬしはれらるゝ又函の費用も
申す事はりし今に申す事
東照宮の神懸わすことハ
宮に永年中函渡来りしを禁せり
は函の多しと今に申す事
渡来りし函も其敷納ありしを
以て函の令限はりし事
此事世々人々に辨せりし
亦慶長より以来函の中は流れ
入るゝ火災の度残る世に神法
固く服急切乃たあは費や
所凡九十餘年同函の令限
減しはるゝ事ハ切用ありし
始及はるゝ事ハ元禄年

中令法は法を改造しれぬ相違
令法又其数を倍し物と其令法
と相違 亦照宣の定直相違
大さ及くし物と其令法
た違おされぬ令法は價を減し
其利を失ふ事とす物と其令法
乃價を倍し加て高貴し物及ぬ
法は價六年に貴く令法は價六年に
賤く物と其令法とハ 公利を賤く減
物と其令法とハ 公利を賤く減
物中中と其令法とハ 公利を賤く減
かへて大なり物と其令法とハ 公利を賤く減
物と其令法とハ 公利を賤く減

況に上ひ其取ハりり其果然く宝蔵ハ
~~~~~取毎~~~~物ハ其國ハ民  
各其家業ヲお傳て所用とお色——年  
東照宮より代々の國君ニより其地を治ルハ  
人ニ令治く價もこの一錢——まじと流  
價もさるるにさるるとして今も其地  
及ハ之心魚つらも物れとも財とを  
利と事ハ其事ハ二高れ其の智ハハ  
わさつら智じつらも其編ニ其余公  
其賦乃其とりり其事今文是照と海  
止るに及小毎つらもす毎くけあ  
事ハ其年ス——知るるハ其事ハ  
つら 河代は始より常ハ 河代ハ  
つら 河代ハ其地ハ其地ハ











浪を造らば一事を六停止せられたり  
備文ニ令浪の取らるる如しなり  
金さふ日  
沖公と見らるれば  
さすに室の夫とて室と共さす  
六 品名をうけて沖安をわらう  
甜波沖事云に今日令浪の取ら  
れしれし  
減し其支長がの代り  
賦用備中  
此一物とて夫とて  
四し令浪の取らるる  
よりの室とて  
の事と共し  
色さす



此の如く合派の取りのことごとくばりしを  
これの如く細ひ其利を失ひはれ流物に價  
共も減して高買はるつるのみはとほ  
り年未し 沖平念のことごとくばりしを  
されたりと故と深しうせひし 若夫  
と成る好しと利もはるるを合派と  
殺しむと減せしれん事し不つれし事

この高と利もその利のむと失ひはるる  
かきとつるは好しと利もはるる  
人と其れを合派とせしむるは  
いれれぬるも合派と事ハ家國一カ  
代をいぬ 東照宮定宝外 法乃  
六とくばりしを 沖平念と  
ゆら天中と成るはと好しと事



彼の由者

正徳二年 辰十月十一日

一十八日火事之節固被仰付

神田橋 松平因幡守

常盤橋 土井周防守

一以橋 松平遠江守

馬場先 松平丹波守

外櫻田 板倉近江守

田安 牧野讚岐守

御出権御道節警固ノ面々被仰付

松平肥後守 堀田伊豆守

松平摂津守 瀧口伯耆守

松平日向守 小笠原信濃守

松平出雲守 大田原飛騨守



松平右近將監

石川石之次

松平大學从

青山下野寺

松平大炊从

蜂須加飛彈寺

松平左京大夫

松平備前寺

松平安藝將

户田淡路寺

百馬玄蕃頭

本多遠江寺

細川主税从

板倉甲斐寺

松平土佐守

柳生備前寺

松平播磨守

松平山城寺

松平但馬守

稻垣大藏

松平伊弉

户田大隅寺

松平和泉寺

板倉伊予寺

内發主殿从

右正五日於阿部豊後守宅折言詞



相濟

宿坊 御目付衆 月窓院

御徒及衆 雲清院 小十人及衆 貞松院

相削衆 佛心院 醫者衆 瑞善院

御祐筆衆 花養院

御出棺道筋半藏門ヨリ内田信濃寺

屋布前井伊掃部及屋布照御堀端通

永井備後守屋前土秋民尺大捕屋布

前照ヨリ小笠原山城寺前通亀井隠

岐寺前ヨリ新橋京極若狹寺前通愛

宕下牧野駿河寺前松平隠岐寺前照

ヨリ池田丹波寺前平野右務門照前

宇田川町通濱松町ヨリ増上寺表門

へ道法三十九丁



御出棺ノ節御玄闕前又八増上寺内  
舍利降候由

出仕之覚

廿日御三家前松平加賀守

御普代

外様大名

諸番及諸物及諸役人

寄合等

右之通可有出仕候

明後廿日御出棺之事候間火入元

入念申付候様面々不可被相達候以

以

於増上寺御法事中下馬下衆之覚

表門ハ矢来際并片町木戸ノ外裏



川ハ長谷川周防宇屋布照石川近江  
 宇屋布照ニテ下馬之事  
 一 参詣ノ面々表川方ハ源身院前裏門  
 一 八庫裏川ノ外ニテ下乗ノ事  
 一 宿坊有之面々ハ断次家来可相通  
 事  
 覚

一 河並糸ノ如ク醫ノ如クノ事  
 一 陪長ノ輩ハコトヲヤクシテセヨ  
 一 河目見ハ陪長ト同カニシテ

十月十日

薨御ノ辰執權衆

大老 井伊掃部 直治

老中 加月 土屋相模 宇政直

...



秋元但馬守喬知

大久保加賀守忠增

井上河内守正峯

阿部豊後守正喬

御側衆

間部越前守佺房

本多中務太輔忠良

若年寄

久世大和守直之

水野監物忠之

鳥居伊賀守尚救

大久保長門守教重

御三家ヨリ御精進物献上ノ義窺之  
処御祝儀ノ献上物追延引可自由

一 廿三日国持四品以上

一 廿四日外様万石以上

一 廿五日御三家松平加賀寺御普代衆

諸衆

一 廿六日諸番及諸物諸役人寄合等



御法号 御臺所 天英院殿

一、御部屋 法心院 於皇御方

一、蓮葉院 在京御方 月光院

御法事白限

十一月三日 申刻初夜御法事

同日 方部讀經始

同日 晨朝廻向

御後所佐渡へ被遣候 廿口米令二百人

扶持以、玉 河野勘右衛門

神保新五左衛門

當月七日 仙洞御所へ近來前撰政

殿被為 召之當十一歳 姫君 入内

被仰出候由

御側衆御小姓衆御小納戸衆御側坊



主衆何毛只今迄人通可相勤首被仰  
置准由去儿十五日掃部及申渡下

一 廿六日方角火消被仰付

芝口御門赤坂御用

中川内膳正 伊東播磨守

赤坂御門市谷御門

後堂備前寺 稻垣大藏

白銀町ヨリ芝口御門

相馬讃岐守 仙石越前守

亀井隠岐守 本多遠江守

白銀町ヨリ昌手橋

細川熊次郎 板倉甲斐守

昌手橋ヨリ市谷御門

石川石之助 勤 頁



出仕廿七日 因持四品以上

廿八日 惣出仕 廿九日 外様一万石

以上 晦日 御三家 松平加賀守

御普代衆同嫡子 誥衆并

一 十一月朔日 惣出仕

一 二月 諸番及諸物及諸役人 寄合寺

於増上寺 御法事

二日 御葬送 酉刻 大方七日 御出棺

三日 申割 初夜 御法事

四日 寅上割 晨朝 卯中割 讀經 千部

初七日 四日 未中割 大呪 供養

申上割 初夜 廿五日 寅上割 晨朝

卯中割 讀經 千部

二七日 廿五日 未上割 日中 法要



二 申上割初夜

三七日 寅上割晨朝 卯中割

施我鬼 辰中割續經千部 申上

割初夜 四七日 寅上割晨朝 卯中割

讀經千部

四 七日 未上割行得 申中割初

夜 八日 寅上割晨朝 卯中割續

經千部

五 七日 午上刻頭寫 申上刻

初夜 九日 寅上刻晨朝 卯中刻

續經千部 申上割初夜 十日 寅

上刻晨朝 卯中刻續經千部

六 七日 十日 未上刻散花供養 申

上刻初夜 十一日 寅上刻晨朝



卯中刻讀經千部

七七日 十一日午中尅法園寺申上

尅初夜

百々日 十一日午中尅四々法要申

上尅初夜 十二日寅上尅晨朝

卯中尅讀經千部 申上刻 十三日

寅上尅晨朝 卯中尅讀經千部

都合万部 十三日申上刻初夜

十四日寅上刻晨朝 初上御忌日

御飯橐 御法事

参向ノ公家無御馳走被仰甘

勅使 久我内府 龜井隱岐守

仙洞使 中院大納言 六口伊賀守

女院使 小倉宰相 太田原飛彈守



宣命使 中納言

滝口伯耆守

代

南部遠江守

来春長昌院殿御法會百部之由女中

御法事三初十云去十五日御法事

奉行大久保加賀寺兼之

十四 參詣ノ面々日限之覺

十一月四日 御之家并松平加賀寺參

諸可被在供事

五日諸大名一万石以上ノ衆并嫡子

可為參詣事

六日七日高家衆諸衆奏者昔衆同嫡

子諸衆並同嫡子昔以芙蓉間御役人

中眞衆兩月内一度可為參詣事

八日九日布衣以上ノ諸役人醫師兩







四人に外うはるは用ひたす毎夫々内は裏お  
うらかきおうらきとく世外又十の一切  
停止し但し宿坊よりわらつる断次  
おひつ

御香奠献とて是

- 一 白銀五十枚 六十百石以上
- 一 同 三拾枚 廿五万石ヨリ五十九万

石マテ

- 一 同 二拾枚 十五万石ヨリ廿四万
- 一 同 拾枚 十万石ヨリ十四万九千
- 一 同 五枚 五万石ヨリ九万九千石マテ
- 一 同 三枚 一万石ヨリ四万九千石迄







四品 埋國ノ内上ヨリ一疊目

諸大夫 同上ヨリ二疊目

布衣 同上ヨリ三疊目

無官 同上ヨリ四疊目

普請ハ未<sup>ル</sup>四日ヨリ御免、間可被相觸候

以上

十一月判日

去月廿去仕ノ覺

三日 惣去仕

四日 高家原諾衆奏者番衆同揃

未生御子諾衆並

五日 諸番及諸物及諸役人寄合等

六日 不及去仕

七日 御三家松平加賀守御普代衆



太儿六日御代替ノ御用被仰付

真御祐筆 服部 源八

来年始御作法書可相勅旨被仰付

普 奥御右筆 馬場木之良助

十月廿五日 方角火消へ渡儿書付

飯高孫太又

一 出少川ワ 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々

一 居屋及ノ 風節 又々



うりやを宅事

一事湯の四石より家来末を望り

らり自湯ふはに河も火消申候事

炊て事自事

一 火事よりして、おひり共、昨日昔く申を

お届で、川の家来、川、おひり共、越つら

お届事、

一 三日夜西久保出火、火元新九郎子大

井小右エ門、同夜兼安祐元、向裏屋ヨ

リ出火

先月晦日夜、駿河臺富永四郎左エ門ヨ

川出火、音木久三、郎類火

雨宮勘兵衛、佛代官所、武列入間郡上

神村権兵衛、卜申、百姓自分、畑へ牛



房ホリニ參候処根深牛房百ノ付三尺  
程ホリ候へハ幅一寸五寸ノ板金十  
四枚堀出入一枚三十八又ヨリ四十  
又追惣目五百四十五六又首之慶長  
元年卜取付リ同亦八日勤兵衛権  
兵衛ヲ召連評定所へ罷出後反庄三  
島立合上古金ニテ首之卜申上ル故板

金公儀へ上リ為代權兵衛ニ金二百  
兩王之

増上寺役者召之御佛殿料千三百七  
十石御寄附ノ由被仰渡

一 十日公家兵到着上使阿部豊後守

織田能登守

御代替御礼ノ節御三家并國持衆真



御太刀可献由

出仕ノ覚

十一月十三日 諸番以諸物外諸役

人寄合等

十四日不及出仕 十五日惣出仕

十六日不及出仕 十七日同前

十八日御三家松平加賀寺溜詰御普

代衆

来年二月於上野長昌院殿御遠忌御

法事御用衆

寺社奉行

松平對馬守

十三日 本多彈正亦彌東漸院

大目付

松平石見守

十勤定奉行 平岩若狭守



一 十二日未<sup>ル</sup>十五日増上寺へ御香奠可  
首献上由

一 十三日記伊中納言殿去二日国元御  
彥駕今日着

未國持外様一<sup>レ</sup>万石以上表高家寄合  
并小普請ノ面々ハ明後十五日

リ廿カヤキリリ可被申候御普代  
礼諸衆並番以諸役人御番衆廿カ  
ヤキソリ候儀先延引可有候

但増上寺へ相詰候面々ハ  
毎用候

十二月十三日

一 十四日初忌日 御名代土屋相模守



着座

井上河内守

御三家并御大老以下ノ御役人ノ御遺

言

人病重日々今日も難凌抗別ハ

溜松更知一ノ家督ノ後立布ノ改葬

此是東思百己也 定之水亦来高家為

代又代、防属輩 下 弟思官ノ御遺を

入 不逆多進心と一ニ一ノ多きハ宗政

出さハ 溜松更人切 包を以て

宣と故ハ 為安と夫見 一 却一ハ

口海安かノ人事ノ謀。准ノ具也

ノ類輩と恭ノ家業と今ハ今更

ノノ人ノノ若クハ老ノ智ノ裁判

多分と用ヒ 西ノノ改葬一ニ 一ノ更ニ



正德二年辰十月九日

御墨印

三家大老附屬ノ連枝譜代奏達ノ  
輩諸役人以下迄ノ義免ノ一ノ乙ニ  
紙ヲ綴

出仕之覚

十一月十九日 諸番及諸物及諸役  
人寄合等

廿日不及出仕 廿一日国持兵四品以上

廿二日不及出仕 廿三日外様一石以上

廿四日不及出仕

増上寺參詣之覚

十一月十六日 松平加賀寺四品以上

外様五石以上

十七日 御普代兵高家兵諸兵奏者



番衆同嫡子諸衆並同嫡子諸衆  
十八日諸番以諸物以諸役人寄合  
等法印法服

右方丈一布衣以上八熨斗目長袴  
布衣以下八熨斗目半袴着之可為  
參諸儀

一十五日公家衆御暇二日奏者番松平

備前寺高木主水正月額御免

公家衆御暇十六日發足

銀五百枚時服十上使  
阿部豊後守  
織田能登守

久我内大臣

同三百枚時服六同断中院前大納言

同二百枚  
小倉宰相

同百枚服服五  
宣命使  
平松收納言



銀世牧時服二

少内記

平田中誓亦捕

月廿牧時服二

副使

青木雅乐丸

右之外贈經使者不殘御暇白銀時

服五丁

增上寺万部之内聽衆人数

十一月四日 三千二百七十七人

十一月五日 一千三百人

六日 一千九百三十人

七日 二千三百七十人

八日 二千三百人

九日 二千三百四十人

十日 二千九百八十人

十一日 二千九百六十人

十二日 三千二百人



十四日

四万人

松平越後守光岳八十八歳迄ノ指料  
ノ大小被献

御刀一尺八寸

二三条古家代金世收

御鞍指一尺

来國卷代金十五枚

御銚大小共水牛里塗御致蔭繪金

逸懸

御縁御致付

御下緒紅

御筭小柄唐木御致蔭繪

御小刀竹銀薄分

去儿九日模田備中守宅へ留守居共

招之御代替御礼真御太刀献上可

有旨被申渡御旨

松平薩广守

松平陸奥守

松平肥後守



松平伊与守

松平越後守

松平淡路守

宗 對馬守

松平右工門督

松平甲斐守

上松民戸太補

松平安藝守

松平大炊次

松平丹後守

松平民戸太補

後堂和泉守

佐竹大膳大夫

有馬蕃次

松平土佐守

細川主税次

松平肥後守

松平出羽守

伊達 伊織

御三家へ去七日御城附へ於殿中

十豊後守申渡

松平加賀守へ八大目付ヨリ被申

一 丹達



一 十八日増上寺へ諸大名参詣ニ付  
过 坚 秋田信濃寺、大目内殿主殿  
十六日 青山下野寺十音加茂 左膳  
十九日来二月於上野長昌院殿御法  
事御番

文殊樓 土井周防守、常照院  
仁王門 小笠原信濃寺、寛成院

中堂表口 牧野讚岐守、本賞院

同裏口 松平兵庫次、明王院

清水口 内田信濃守、等覚院

車坂 松平主馬、以修禪院

屏風坂 本多若狭守、一条院

新清水口 京極主膳正、養壽院

同御法事中火ノ番 後堂源五郎



一 秋元 阜人 是谷川久三郎

保田 内膳

同御用被仰付 御賄方 山田小兵衛

小普請方 川村弥兵衛

加茂源助

御祐筆 首 又右門

横山 源助 可兒孫四郎

出仕 覚

十一月廿九日 御三象 松平加賀守溜

誥御普代衆

廿六日 不及出仕 廿七日 不及出仕

廿八日 惣出仕 廿九日 不及出仕

一 廿五日 紅葉山御佛殿御手傳

小笠原右近將監



月御用 御作事奉行 柳沢備後守

一 同断 小普請方 金井六左門

大田伊兵衛

人叅座賣買只今追銀 調候向後金

子音銅 取 越可申候

宗對馬守叅勤 伺 公方様薨御

一 義朝鮮国へ申遺候ハ、前々ノ通

為吊札驛官可叅ノ 同對詰ノ上叅勤

可有由

高野山学侶龍光院候 毎量壽院後住

被仰付

御代替 付日 光極月十七日

京師 御名代 松平肥後守

同 止日 御名代 青山下野守



作 板倉近江寺

京都一 金十五枚 時服三 中余山城寺

代 前田伊豆寺

同伊勢一 長沢壹岐寺 代 京極大膳大夫

一 止九日 御遺物被遺 代 達部墨跡

御服差 栗田口吉光 代 金二百枚 上使加賀寺 尾張殿

御服指 栗田口吉光 代 金二百枚 上使同人 虛堂墨跡

上使同人 紀伊殿

御服差 栗田口吉光 代 金百五十枚 大燈墨跡

上使相摸寺 水戸殿

御服差 貞宗代 金百五十枚 上使水野監物 松平加賀寺

同 末田光代 金七十枚 上使同人 同 若狭寺

御口 近景代 金二十五枚 於御殿拜領 松平兵丁大捕



御照差兼光代於御殿拜領松平主稅

御屏風黑繪仙人 上使土屋相模守准后御方

源氏物語青磁御香炉 天英院様

同断 十種香台口 月光院殿

朗詠集為氏筆御壺田中 瑞春院殿

千載集為定筆御壺 養仙院殿

古今集唯親筆御壺 松姫君

同為實筆御壺 竹姫君

歌仙手鑑公家與寄合書繪探信筆

羨代姫君

源氏物語御料密硯 法心院殿

同断 御文臺硯 蓮糸院殿

御壺薄雲 壽光院殿

掛物布袋熟菴筆 井伊掃部



同寒山十德繪讚

土屋相模寺

同山水長隆筆

秋元但馬寺

同斷

大久保加賀寺

同斷

井上河内寺

同斷

阿部豊後寺

驢馬繪讚篤翁君敬

間部越前寺

布袋繪葦翁筆癡絕筆

本多中勢太神

右月斷梁階筆

久世大和寺

山水雪舟

水野監物

同

鳥井伊賀寺

同

大久保長門寺

不思倭之考書

権現様文照院殿  
壬寅年御誕生

慶長六七年宝永六七年御治世四年



元和二年辰年 正德二年辰年 御他畧

觀智因師 祐天大僧正各引道寸七

十六歲

富田大中寺後住芝泉岳寺於柳間被

仰付

一 朔日惣去仕首之此以後不及去

仕候以上

十一月廿九日

御代替ノ御札ニ付

正月朔日同二日同三日去仕ノ合ハ

朔日ニ登城

真御太刀献上ノ後可為廿年ノ通候

乞先達ノ相觸候通可被心得候

一 侍徒以上並岳四品諸太天八持衣布



衣コノ面々己裝束無官ノ輩ハ長袴又  
素袍可有着用候

一 万石以上幼少病氣式ハ在国在亦之  
面々ハ名代之使者御礼ノ日御太刀

可献上候云使者素袍可着候

一 万石以上隱居ノ衆不及御礼候云在  
所共ニ御礼ノ日以使者御太刀可被差

上候

一 万石以下諸大夫并三千石以上在所

又ハ御役所ニ在之面々其外病氣ノ

一 分ハ以使者御太刀可有献上候日限

ハ追テ可相達候

一 諸御番衆ハ其向々一組ヨリ五六人

宛御礼可有之候但御腰物方五六人



御納戸八組及ノ外元方拂方ヨリ十  
人程御右祐筆ハ當番切勘定方八組  
及ノ外十人程可被指出候

一 為御祝儀掃部以老中越前寺中誓太  
捕若年寄中ハ可被廻候日限ハ追テ  
可相達候不込合様三可被心得候  
一 右同所ニ付在厠在取又ハ却亦病氣

ノ面々ハ使者可被差越候日限ハ追  
テ可相達候

一 寺社并職人所人年始御礼罷出候分  
此度ハ死出ニ不及候年始相兼御礼  
可申上候

右之通可被相觸候以上

同本十二月日



右万石以上八大目付ヨリ相達万  
石以下八御目付鈴木伊兵衛間宮  
不勤負稻葉多宮中根半十郎ヨリ相  
觸之  
鳴物ノ儀所作仕候者共計明後五日  
ヨリ可被差免候以上  
十二月三日

一 来儿五日朝御中陰朋ニ付四品十  
万石以上八面々在國在所共ニ御看  
可百献上ハ御看之品ハ何ニ付七貞  
鳥貝類不苦旨大目付中ヨリ被相達  
一 天英院様へ白銀三十枚箱看一種ニ  
十万石以上同廿枚同断十万石以上  
同十枚同断五万石以上同五枚同断



一 万石以上同五牧同断十万石以上  
嶋子同隠居

一 月光院様へ白銀二十枚三十万石以上

月十枚十万石以上同五牧五万石以上

同三枚一万石以上

右通二九迄以使者可被差上候但日限

不候八追下可相違候

十二月

一 十二月朔日夜下谷火事増火消

一 松平伊豆寺

蜂須加飛彈寺

一 亀井隠居寺

相良近江寺

安部摂津寺

一 二日月三日ヨリ八光ツヨク内ニ星

入後ニ八月ノ下ニ星付月ノ光ヨリ



星ノ光ツヨク候

一 丑日芝神明前火事増火消

小笠原山城寺

亀井備後寺

井伊兵衛少輔

錫嶋和泉寺

一 六日從四下中將

松平肥後寺

右依御遺言被仰付之日光へ御

暇玉リ来ル十三日祭足

青山下野寺御暇賜之来ル十二日祭足

長澤壹岐寺御暇金十枚職服三羽織

玉ノ

御側衆拾被仰付

久貝因幡寺

三枝堪津寺

右兩人御誕生ノ節ニ相勤候ニ付

御側衆並被仰付











右八御忌ノ御法事御執行付御布施  
被進

御白書院御修覆去来役人王慶義

御役替

御納戸

山名太兵衛跡御小  
姓組太目土佐守組

武嶋 左門

新御番組

佐橋左源太跡新  
御番松平主馬組

百田九右工門

大御番組

門奈助左工門

御疊奉行

浅香傳在川跡  
御徒日付ヨリ

滝野平右工門

大奥御年男被仰付

松平全計

奥御年寄衆列御書付出儿

常盤井

三室 高瀬 川嶋 丹後御乳人

倉橋 於ヨリ

十七日日光御宮へ進献 雄釵

氏久代  
金十枚 龍馬一疋 鞆置



廿日御佛殿へ御方刀一腰御馬一疋

黄金  
十兩

伊勢内宮へ雄劔一振

即久代  
金五枚

龍馬一疋黄金  
十兩

同 外宮へ雄劔一振

守次代  
金五枚

右同断

一 十日内夜能登寺率又

一 十一日御代替後初于御表へ去御御礼

被為請

於御座間参勤御礼

御家川方へ御手自  
履斗目被進

時服三十銀五枚

紀伊中納言殿

於墨書院参勤御礼

銀三百枚錦二百枚色糸百斤

松平丹後守

時服五金馬代箱着城地并領御礼

共二 土岐伊与守



綿二百把金馬代

堀田伊豆寺

綿百把金馬代

戸田能登寺

溜川家督御礼

金三十枚時服二十

松平因幡寺

時服十金馬代

松平越中寺

金

相良道江寺

繼日御礼 金十枚時服五 大村伊勢寺

金五枚時服三

酒井 右近

叅勃金馬代 須綾止卷

龜井 隱政寺

銀馬代時服三

小糸 遠江寺

半奉替叅府箱看

稻葉丹波寺

内辰山城寺

安部 櫻津寺

保料兵戸次捕

内田 信濃寺

竹間駿府加番 歸羽織 三銀馬代



古御時有地衣御座  
一古方丹後守

馬檀三銀馬代  
一柳生稅

雨鞍覆三銀馬代  
本川藏人

右御通掛御目見

紀伊殿家来時服三銀馬代

水野安房守  
三浦遠江守

松平因情寺家来銀馬代  
久徳隼人

吉村權左門

隱居献上御刀寺家代千貫御壺

松平越中守

天英院殿古今集  
禪法輪宗香筆  
代金二十枚

右同人

同断御刀  
延壽國寶代  
金十五枚  
相良志六守

遺物御刀  
吉岡一文宇代金  
十三枚  
酒井備後守



御刀 備前是克代  
全十五枚

大村筑後守

小十人番入 松前伊豆寺支配七郎右

湯門畔柴山次郎右工門

清心院殿御用人諏訪庄兵汚跡御用

達ヨリ百五十俵加増役料百俵玉田忠

四郎

同御用達 忠四郎御侍無ヨリ  
七十俵御用米 内吉左工門

上野是昌院殿料百石増被遣由役者

靈山院へ被申渡

五山惣祿仰付 金地院

一 十二日昨日初テ 御對顔付御登城

水戸中納言殿 紀伊中納言殿

昨日初テ御表出 御付御三家公

御樽看被献之



二万石御加増

松平兵衛太神越知

千七百石御加増都合三千石

大田外記

二千石御加増都合三千石 勝田帯刀

新規千石 寄合帯刀 同 左京

同五百石 同 同 頼母

新規二百人扶持 帯刀 養父 院款突父

同 玄哲

右御遺言 依 賜之

御病氣為御尋御看一種被遺

上使大久保甚門守 尾張中納言殿

林百助月並ノ誦尺有

一 十五日惣出仕有之尾張殿水戸殿病

氣 依ノ無登城

被為召官位被仰有矣



研少將 松平左京大夫

從四位下侍從尾張殿舍弟松平八

十三郎改大隅寺

從四位下侍從尾張殿舍弟松平喜千之進

同斷 肥後守嫡子 松平十五郎 改安房寺

諸大夫被仰付 堀親貞 左京之進

稻垣大藏 信濃寺

加茂左膳 和泉寺

松平主馬 朝原佐

松平内記 主膳正 封馬守嫡

水野伊織 肥前守嫡 改壹岐守

伊勢孫八郎 御書請奉行 改伊勢守

布衣役人止一人被仰付

吉田橋御普請御手傳 秋田信濃寺



松平宮内亦神願ノ通和泉寺弟小三

高養子被仰付

尾張殿願ノ通諸大夫被仰付

家司 阿部 縫殿

明細書御認来ル十五日前可指出候

則案掛進之候

十二月五日 松平石見寺

四日十八日 沖代替沙札 奉くるる名目

お筋の包のつ宅 減小

十二月十六日

沖代替沙札

本年十八日正月三日申但し一日登

減沙札のつるくは流より室よりお筋の包

の被り候











門入先二日勝

因節

宗印 角落 手明 因碩 宗与

宗詔 勝 宗桂

一 十八日 巳后 刻御表へ 出御 御代替

御礼 御規式書人 通相濟

御白書院 御着座元日 御白書院 御目

見四品以上 三代以上 出座 御礼 大廣間

御着座 正月二日 着座 因桂 大名 二代

出座 御礼 同所 松ノ間 一 間 二 間 柳間

面々 兼 百石以下 諸大夫 布衣 兼 每間

葦素袍 二 御礼 御白書院 帝鑑 間 正

月三日 御礼 是袴 二 御礼

一 十九日 十百石以上 嬬子 隱居 日リ

天英院 様へ 計御祝儀 指上 候 等 候



八月先院様へ五指上候等ニ成候  
間ニ九仕廻候ハ中ノ口廊下へ可  
差上由

十九日廿一日廿二日、内為御祝儀何  
王老中可被廻候事、大御所御  
在国在所日、御側衆ノ書通ハ前次  
ノ通、西入小連紙一通送付、御側衆

ノ通、三枚攝津糸、冬具因幡守  
坂部安次郎知少ニ于先年病死跡目  
書之ニ付名跡願、通教帳ニ附候先祖  
御奉公仕候者ノ節目故當五月  
嚴有院殿三十三回御忌ニ付名跡相  
續可被仰付候間相忘ノ者ヲ可相  
伺ノ旨是田新右衛門へ被仰渡候



有御法事并被召出十五人扶持被下  
 由被仰渡  
 一 廿二日暮象戲ノ者御暇并領物如例  
 一 廿三日  
 一 御官位 御名ノ字ノ為御祝及明後  
 廿五日厨斗日着用惣出仕ノ事

一 右為御祝儀廿五日 万石以上廿六日  
 万石以下何モ宅ニ可被参交  
 但某書ノ儀後廿八日前迄迄宅ニ  
 系ル儀定家相違出地ル事ハハハ  
 延川 廿七日廿八日ノ内膳ノ次等ノ  
 系ル事  
 右石四石根ノ被お包地由ノ被お解



十二月廿二日

一 廿五日惣去仕掃部次老中列座越前  
寺被申渡

御官位 從二位權大納言

御名彙 家綱公

右禁裏ヲリ被進之 當今御知也

一 女舟仙洞被染震筆ノ由

一 正月朔日 為半時揃 二日 同前

三日 同前

是

一 御膳忌ノ為 沙院儀奉正月四日惣出

仁ノ事

一 右為沙院儀正月四日 万石ノ同六日

万石ノ下 何處宅ノ事



此年以ノ脱後之日より七日迄ノ内  
何處宅ノ迄亦山根家方お逢出テ有奇  
前ハ波延川七日九日十日十一日ノ内勝  
子以身ノつら事

右木田倉根ノ波延川ノ以テ

二十月

一 廿八日月次人出仕有之御三家御座

間ハ御通并溜諾モ被通其外於席々  
出仕ノ面々老中被謁

二 廿九日為歳暮御祝儀御三家登城

其外例年出仕面々被出  
関所切午向後可為四判之由

松平主計从 松前伊豆守

大嶋肥前守 大久保淡路守



嚴百院殿御法事二付被召出七人杖  
持以賜之 河原甚四郎

櫻井茂左門

内及能登寺跡或願入通嫡及丸病氣

二付小市郎入被仰付 大久保加賀寺宅一  
同道内及山城寺

同主殿外

廿六日松平志片寺卒

廿八日安反駿河寺卒

廿九日松平又四郎卒 佐渡寺子

文露叢卷九終



前百... 河... 櫻...

内... 櫻...

加... 櫻...

其... 櫻...

十九日... 櫻...

櫻...



